

## 地域イノベーション戦略推進会議（第1回） 議事要旨

1. 開催日時 平成24年8月2日（木）15:00～16:30
2. 開催場所 広島県庁北館4階 第3委員会室
3. 出席者
 

福田 幸雄	株式会社アスカネット代表取締役兼最高経営責任者
貝原 潤司	カイハラ株式会社代表取締役社長
藤岡 純	コベルコ建機株式会社代表取締役社長
江川 龍太郎	シャープ株式会社執行役員電子デバイス事業本部長
金井 誠太	マツダ株式会社代表取締役副社長
浅原 利正	広島大学学長
池田 晃治	株式会社広島銀行代表取締役頭取
湯崎 英彦	広島県知事
(進行役) 川村 健一	広島経済大学教授

(出席者名簿順, 敬称略)

4. 担当部署 広島県商工労働局 産業政策課 産業企画グループ  
TEL 082-513-3355 (ダイヤルイン)

### 5. 議事内容

#### (1) ひろしま発産業イノベーションの加速に向けて

広島県におけるイノベーション加速の方策検討状況について、資料1及び資料2に基づき事務局から説明。

- |      |   |                       |         |
|------|---|-----------------------|---------|
| 資料番号 | 1 | ひろしま発産業イノベーション加速化に向けて |         |
|      | 2 | 〃                     | [ 資料編 ] |

#### (2) 意見交換

これまでのイノベーション創出への取組み、今後地域発でイノベーション創出を図っていくために必要な対策などについて意見交換。

	イノベーション創出のポイントや課題	イノベーション創出を促す施策アイデア
マ イ ン ド	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高い理念・志と将来を見るという意識で中期的に取り組んだ結果、イノベーションが生まれた。</li> <li>○10年先どうありたいか、事業の理念、信念は何かは議論すべき重要なポイント。</li> <li>○今までになかったもの、誰もやらなかったことをやろうとする姿勢が必要。</li> <li>○官の支援策だけに依存するだけの姿勢は良くない。自社独自のものづくりを展開してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イノベーションの目標・目的を、はっきりさせる必要がある。経済発展だけが目的ではない時代であり、地域の発展、県民の幸福価値追求を目的としてはどうか。</li> <li>○イノベーションの重要性など若い人へのイメージ戦略が重要。</li> <li>○イノベーションを生み出し起業することにフォーカスして県内運動を展開してはどうか。</li> <li>○上場することを目標テーマに設定してはどうか。上場を目指すということは、素晴らしい会社になる道筋。</li> <li>○域内のイノベーション創出への取組みを評価し、表彰・顕彰する恒常的なイベントを創設してほしい。</li> </ul>

	イノベーション創出のポイントや課題	イノベーション創出を促す施策アイデア
人材	<p><b>【イノベーション人材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規ビジネスのアイデアを持っている人は多いが、事業として運用し利益を出すプロセスまでやり切れる人が少ない。</li> <li>○イノベーター＝アントレプレナー(起業家)ではない。</li> <li>○長期的な視点の中で、地域固有の資源・環境などを背負い活用できる人材が少ない。</li> </ul>	<p><b>【創業人材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○血気盛んな情熱を持ったイノベーターを発掘し、ビジネスアイデアを実行し、やりきるまでコーチングする仕組みを作ってほしい。</li> </ul> <p><b>【技術人材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的学問・技術を理解する人材を、地域の中で育てて欲しい。</li> <li>○異分野の人が共に働く場をオーガナイズする人材の育成。</li> <li>○高付加価値のものづくりで儲ける仕組みを考え、それをドライブする人材が必要。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○能力ある企業人材がスピンアウトしないで、例えば域内大学で活動できるなど循環する仕組みが必要。</li> </ul>
事業環境	<p><b>【事業戦略】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開業率をもっと高めていく必要。</li> <li>○事業戦略として、①伸びるエリアへの経営資源の集中、②規模・価格ではなく、質と価値創造で勝負、③競合他社との差別化徹底、に注力することで勝ち残ってきた。</li> <li>○顧客先をダイレクトに訪問して、市場調査をして、商品動向等を徹底に調べる姿勢が重要。</li> <li>○これまでは、色んな要素技術を集めて新しいデバイスやアプリケーションを開発してきたが、これからは、要素技術を集約し、既存デバイスを進化させるイノベーションと、デバイスそのものを変えてしまうイノベーションの両輪を追求していく必要。</li> </ul>	<p><b>【事業環境の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際競争力を高めるため、インフラコストを低減する施策を講じて欲しい。</li> </ul>
支援環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内地域の会社が取組んでいることを、その地域で周知をして、他社の取組をわかった上で、事業展開していくことが、大変重要ではないか。</li> <li>○地域の金融は、地域と運命共同体。ともに人口を増やし、雇用を守っていく必要があり、助成金、エクイティ・ローン等事業段階に応じたメニューはおおむね整備されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公的試験機関には企業が各種相談を持ち込む地域の重要拠点。企業が抱えている問題を迅速に解決できる人を常時配置して欲しい。</li> <li>○来年3月に訪れる、金融円滑化法の期限は、地域経済にとって重要な課題。</li> <li>地域の金融は、取引企業の定性的な事業素質を分析し、その結果を今後の事業展開に役立てるための取組を行っており、この手法をさらに活用することができれば、地域におけるイノベーション創出のきっかけになるのではないか。</li> </ul>

	イノベーション創出のポイントや課題	イノベーション創出を促す施策アイデア
大 学	<p>○大学の使命は、教育、研究、社会連携であるが、2004年の法人化後、社会連携が重視されるようになった。</p> <p>○大学教員のコーディネート機能は十分でない。産学連携センターに、コーディネーターを配置している状況。</p> <p>○研究は、時間がかかるもの。一方で、イノベーションと起業(ビジネス)は直ちには結びつかない印象がある。</p> <p>○広島大学の特許取得件数は昨年、一昨年と日本の大学の中でも5番以内の位置。優れた研究をしているが、成果として実現できるかどうかは不確実。</p> <p>○競争的資金は、3～5年後に成果を求められるため、腰を据えた研究ができなくなっている。</p> <p>○大学は、ダイバーシティな環境を提供する場所としては、優れた機能を持っている。</p>	<p>○産業界等との双方のコミュニケーションを促進し、産学官連携体制の強化を図るとともに、広島大学の研究成果の実用化等を通じて産業の活性化を推進することを目的として「産学官連携推進研究協力会」を設立している。本会では、イノベーションの創出に向け地元の中小企業に対して大学の研究シーズを発信するなど地域の企業との共同研究が多数生まれてくることを目指している。</p> <p>○日本企業の国際競争力が低下した今、長い目で見て、研究費を確保すること、研究に投資することが重要。</p> <p>○地域イノベーションに通じる大学の役割を果たしていきたい。共同研究を推進したいと考えており、行政にも支援してもらいたい。</p>

## 6. 次回開催日

平成24年10月1日(月)

《終了》